

# 2015年度 神戸女学院大学 女性学インスティテュート主催 特別講演会

演題 「授かる」から「作る」へ？—生殖をめぐる技術の発展と課題

講師 大阪大学大学院 医学系研究科医の倫理と公共政策学

特任助教 <sup>こかど</sup>小門 <sup>みのり</sup>穂 先生

「子どもがほしいけれども、なかなか妊娠しない状態」に対して、さまざまな医療技術が開発されてきました。そのうちの一つである体外受精は、女性の身体から卵子を取り出し身体の外で受精させる技術です。体外受精という技術は、ある女性から取り出した卵子で作った受精卵を、別の女性の子宮に移植することも可能にしました。卵子の提供や、第三者の女性にカップルの受精卵を産んでもらうことができるようになったのです。

誰が、どのような技術を利用できるのか。男女のカップルに限定するのか、同性のカップルや独身者も利用できるとするのか。第三者の関わる技術はどこまで認めるのか。提供者の情報は開示されるのか。さまざまな国で規制が作られています。こういった規制はその社会の生殖観や家族観を反映していると考えられます。これらの規制を手がかりに、生殖補助医療技術のはらむ課題を検討したいと思います。



## <経歴>

2008年 京都大学大学院人間・環境学研究科研究指導認定退学

2011年 博士学位（人間・環境学）取得

2010年～2013年 大阪教育大学非常勤講師

2013年 立命館大学生存学研究センター専門研究員

2013年～ 立命館大学、堺看護専門学校非常勤講師

2014年～ 大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学  
特任助教、近畿大学非常勤講師

専門は生命倫理。特に、フランスにおける生殖技術と社会のあり方に関心を持ち研究している。

【日時】2015年5月15日(金) 10:35～11:25 (アッセンブリアワー)

【場所】神戸女学院 講堂 <参加無料・申込不要>

多数の方のご来場をお待ちしております。

自家用車でのご来場はご遠慮ください。

タクシーでお越しになる場合は、西門をご利用ください。

キャンパス内は全面禁煙となっております。

あらかじめご了解ください。

【問合せ先】神戸女学院大学 研究所

〒662-8505 西宮市岡田山4-1

Tel : (0798) 51-8544 e-mail : ri-o@mail.kobe-c.ac.jp

